

事例1-1

取組名	プロジェクトチームによる町会再編等の検討		
町会名	渚本村町会（田川地区）	町会 データ	・人口／993人 ・世帯数／481世帯 ・高齢化率／21.3% ・町会加入数／318世帯 ・隣組数／11
取組概要	○ 町会運営の諸課題について検討するため、「町会再編検討プロジェクトチーム」を設置 ○ チームによる検討結果を踏まえ、隣組を再編したほか、役員の輪番制を導入		

背景・課題

- ・ 近年、町会内に新たなマンションが建設され、50年ほど前は約50世帯だった町会加入数は、現在300世帯を超えている。マンション世帯の一部は町会に加入しているが、町会役員は、これまでマンション以外の世帯が務めてきている。
- ・ 町会活動への住民の関心はあまり高くなく、役員選出には毎年苦心していた。

経過・取組内容

- ・ 町会活動の持続や役員選出の負担軽減のため、町会長の発案により、隣組を6ブロックに分けた長などで組織した町会再編検討プロジェクトチーム（以下「PJチーム」）を作り、R6年5月「これからの渚本村町会について真剣に考える会」を開催し、以後月1回のペースで組織再編の検討を重ねた。
- ・ 会の開催に当たり、次のとおり検討事項として提起した。
 - ① 町会の分割（分会の設置）
 - ② 隣組の再編
 - ③ 役員の輪番制
 - ④ 行事のあり方
 - ⑤ 町会費の値上げ
 - ⑥ 災害時等有事の対応
 - ⑦ SNSの活用
- ・ 同年11月、検討事項の内、隣組の再編と役員の輪番制について次のとおり検討案をまとめた。
 - ① R7年度は、業務の効率化や組長等の負担軽減のため、30以上あった隣組を11に整理。
 - ② 役員選出については、2年ごとに各組から代表者1人を選出し、町会長をはじめ11の役をそ

れぞれに割り振るとともに、輪番で回していくこととした。（R8年度から実施予定）

- ・ なお、組織再編の検討を機に、新旧役員（34人）でLINEグループを作り、一斉連絡も可能にしている。

成果・今後の展望等

- ・ PJチームを組織し、町会内の諸課題を集中的に議論したことで、隣組の再編や役員選出ルールの見直しなど、抜本的な運営改善を図る基礎ができた。
- ・ 他の検討課題については、今後検討を進めていく。
- ・ 町会長を始めとする現役員は任期終了後もアドバイザーとして残り、引き続き運営をサポートしていく予定。

日時：令和5年5月8日19時～
場所：渚本村町会公民館
主催：町会長

渚本村
これからの町会について真剣に考える会 第1回

1 はじめに
我が渚本村町会、50年ほど前は約50世帯だったと聞きますが、今では300超世帯と大成長を遂げています。高齢化や高齢化によりやむをえず解散する町会もある時代に誇らしいことですが、拡大による役員負担や形勢は深刻な問題です。ご自身ご家族にも及ぶ後継者のために今後どうしていくべきかを全員で真剣に前向きに考えようこの会を提議いたします。

2 町会の現状
○324世帯（内マンション162世帯）
○75歳以上の独居世帯等 33名
○児童 名
○近距離「角魚川静岡橋道線」が通る・地名の由来どおり河川も多い

3 今後の検討事項
○町会を分ける 例え「3丁目分会・4丁目分会」
→行事などは今までどおり全体で固執して行いつつ、役員をそれぞれに置いて負担を減らしていく。
○隣組の再編成 一組を10軒ほどでいかにか
→組長10年に一回、ごみ当番などの負担軽減
○役員の輪番制 役員選任規定を明確にしたい
→いつかは自分にも、人の苦労はやってみて分かる
○行事の在り方 続けるもの、やめるもの、人望め
○町会費は現状でよいのか 公民館の修繕費も近い将来必要になってくる
○災害時等有事の際に町会として何ができるのか
○SNSの活用 etc 以上

「真剣に考える会」の資料

【ポイント】

- ▼ プロジェクトチームを立上げ、町会運営の改善に向けて真剣に議論